

■ 学校教育目標 ■

心身ともにたくましく伸びる子どもを育てる。

■ 教育指導計画 ■

- 1. 学校経営の重点
 - 学び合い、認め合い、つなぎ合いを大切にした教育活動を推進する。
 - 自ら学び、考え、判断し、表現する子どもを育成し、「活用する力」を育てる。
 - 保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。
- 2. 学習指導の重点
 - 学習環境を整え、主体的に学習に取り組む児童を育てる。
- 3. 生活指導の重点
 - 学校、家庭、地域、関係諸機関が連携し合って、規律正しく安全に生活できる児童を育てる。
- 4. 保健管理・指導の重点
 - 健康的な生活習慣が身につくようにする。
- 5. 研修の重点
 - 研究・研修を通して教職員の資質を高め、指導力の向上を図る。
- 6. 言語力の育成
 - すべての学力の基礎となる読解力や表現力を培うために言語力の育成を図る。
- 7. 体力向上
 - 自ら進んで体力づくりをする子どもを育てる。

■ 教職員の構成 ■

	名 前		名 前
校 長	柴 山 浩 一	習熟度別少人数指導	都 留 恵 子
教 頭	中 村 文	個に応じた指導	中 井 恵 子
教 務 主 任	高 田 博 史	育 児 休 業	土 肥 美由紀
1 年 い 組 担 任	岡 嶋 悦 子	育 児 休 業	井 上 珠 美
2 年 い 組 担 任	市 原 季美子	養 護 教 諭	池 田 寿 恵
3 年 い 組 担 任	湊 三三子	事 務 主 任	垣 内 眞佐樹
4 年 い 組 担 任	田 原 淳 一	管 理 作 業 員	北 野 知 昭
5 年 い 組 担 任	栗 原 元 司	管 理 作 業 員	河 野 涉
6 年 い 組 担 任	安 田 律 子	給 食 調 理 員	藪 内 広 美
習熟度別少人数指導	河 部 久 美	給 食 調 理 員	大 塚 利 恵

■ 児童数 ■

	1 年 い組	2 年 い組	3 年 い組	4 年 い組	5 年 い組	6 年 い組	計
男子	10	9	11	18	9	13	70
女子	22	13	13	19	12	10	89
計	32	22	24	37	21	23	159

(平成24年 5 月 1 日現在)

■ 地域別児童数 ■

地 域	人 数	地 域	人 数
西天満 1 丁目	11	天神橋 1 丁目	29
西天満 2 丁目	0	天神橋 2 丁目	0
西天満 3 丁目	47	天 神 西 町	5
西天満 4 丁目	11	菅 原 町	24
西天満 5 丁目	21	天 満 4 丁 目	1
西天満 6 丁目	7	そ の 他	2
中 之 島	1	合 計	159

■ 学校生活の様子 ■

トップアスリート夢授業開催 (シドニーオリンピック銅メダリスト 中尾美樹選手)



七夕集会



体育の学習



歯磨き指導

音楽の学習



浄水場見学



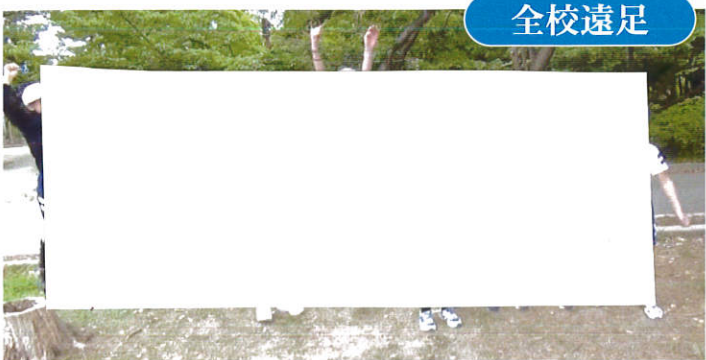
交通安全学習



大八木淳史選手と
楯円球で遊ぼう



全校遠足



■ 本校の特徴的な取り組み① ■

昭和40年（1965年）山本才次郎校長在任1年目から取り組みが始まった。文部省指定「道徳教育」研究校として研究を進めるにあたり、児童を評価する方策の一つとして考えられた。この時、「低学年」「中学年」「高学年」それぞれの発達に応じた日記用ノートの様式が定められた。

全校児童が、1年間、365日、一日1ページを原則に、休みなく書き続ける。一か月1冊。年間12冊。6年間で72冊の日記ノートが残されていく。今年度で47年にわたる本校の伝統的な取り組みである。

子どもにとって、正月も家族旅行中も、そして林間学習や修学旅行といった宿泊行事でも、休みなく、毎日、日記を書き続けることは、苦しいことである。しかし、継続することで、「書くこと」に対する抵抗感がなくなり、読み手を意識して文章構成や挿絵を工夫することにより、結果として言語力（表現力）を身に付けることになる。さらに、日常生活の中で、題材を見つけ、書きたいことを考えることは、一つ一つの出来事を心に刻みながら、美しいものを見たときに、「きれいだ」と感じたり、うれしいこと、悲しいことに会った時に、「うれしい」「悲しい」と感じたりすることができるなど、心を豊かにすることにもつながっている。また、学校で友だちとトラブルがあったこと、家庭で心配な出来事があったことなど、悩みや心配事を担任に伝える手段としても、貴重である。

私たち、教職員にとっては、上述したように、日記指導を通して、子どもの言語力を高め、豊かな心を育むことはもちろん、その内容から、児童の生活の様子や心情をつかむことができるのも大きな効果である。日常生活で見逃してしまいそうな点を指導者が把握し、適切な対応をすることができる。また、日記へのコメントを通して、自分の教育観、価値観、伝えたいことを児童や保護者に発信することもできる。

365日書き続けるためには、保護者の協力が不可欠である。長期休業中に家族旅行するときにも、子どもは、この日記「たくましくのびていこう」を携行し、一日の終わりに書いている。はじめは、「そこまでしなくても…」といった考えの保護者も多い。しかし、日記を書き続けることによる子どもたちの変容や、日記が、こどもの学校生活や心の状態をつかむ手掛かりとなることを感じ取ることによって、その価値に気づき、日記を書くことを積極的に支援して下さるようになる。

また、子どもの日記に対する担任や指導者のコメントを読むことにより、学校や学級の指導方針やねらいを知ることができるという点も大きな成果である。

中には、親子二代にわたって日記に取り組んでいる家庭もあり、親子ともども貴重な記録として今も大切に保管されている。

このように、この日記は、72冊の宝物として教員と児童・家庭をつなぐ貴重な取り組みであり、本校の教育目標である「心身ともにたくましく伸びるこどもを育てる」を達成するための基盤であるといえる。



■ 本校の特徴的な取り組み② ■

「たてわり活動」（全校活動）

本校は、小規模校であるため、学年集団が固定化する傾向が強い。それを改善するために、毎年、全学年の児童をたてわり班に編成している。6年生がリーダーとなって、昼休みの清掃活動や全校活動（春の遠足、七夕集会、西天満カーニバル、ジャンボカルタ大会など）に取り組んでいる。低学年の子どもたちは、高学年がリーダーとして年下の子どもたちの世話をする姿を毎年見ることで、自分たちが高学年になったときに、きちんとリーダーとしての役割を意識して活動するようになる。リーダーシップ、フォロアーシップが自然に育まれている。

「日本の伝統・文化」の教育実践

本校の校区は、日本三大祭りの一つである天神祭が催される天満宮の地元である。祭の幕開けに執り行われる「鉦流し神事」で鉦を流す役割を担う「神童」は、毎年、本校の児童の中から選ばれる。また、「傘踊り」「こども神輿」などにも、本校の多くの児童が参加している。このように、本校の児童は、地域の人々の熱心で温かい支援のもと、日本の伝統的な行事に触れながら成長し、いずれは、祭の担い手となっていく。そんな環境の下、本校では以下のような教育内容も実践している。

- (1) 能楽・狂言体験（3・4年生）
…文科省
「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」
- (2) 太鼓・琴演奏（5・6年生）
【140年の歩み②参照】
…琴は地域の上野富美子先生の指導
卒業茶話会等で披露
- (3) 「書」の体験
…書家 秀島踏破先生の指導（H20～）
- (4) 盆石（5年生）
…地域の天野様の指導（H17～）



運動会の伝統種目

「大綱引き」… 戦前本校で行われていた種目だった。4本の綱を真ん中で一つに結び、紅白それぞれ4本の綱を引き合う。戦中・戦後一時途絶えていたのをS42.井塚陽一校長就任時に復活させた。大綱は、南港で船の係留用ロープを調達し、地域の「大作（田中氏）」の協力を得て設えた。「大綱引き」の歌を全校児童が歌いながら入場し、紅白に分かれて引き合う。児童に続いて、菅南、西天満地域対抗種目としても実施されている。

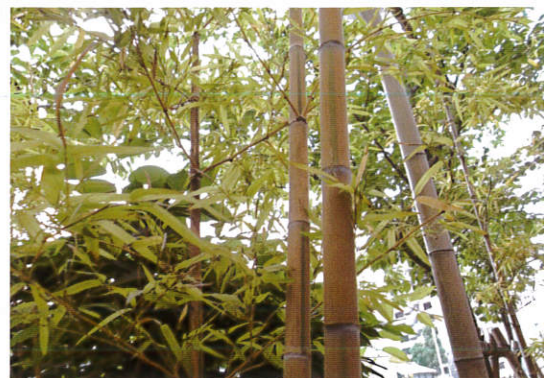


「西天満音頭」… 文部省指定「道徳教育」研究校の折につくられた。歌詞は、当時の児童、曲は、疋田三千雄先生（当時、本校教頭）の作。振り付けは、日本フォークダンス協会理事 和佐先生（本校教諭）。一時途絶えていたが、2001年（H13）復活した。歌詞は残っていたが、歌を録音したものがなかったので、当時の小学校4年生の合唱により再録音した。



大切に育てていきたい植物・樹木

「笹部桜」… 桜博士といわれた笹部新太郎翁（本校卒業生）ゆかりの桜。
「金明竹」… 勢山孝藏氏（本校卒業生）寄贈。竹の節ごとに一本の緑の線が出る。
「100万本のばら」… H20に植栽。「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」寄贈。



イベント参加

「100万人のキャンドルナイト」
（ペーパーバッグ行灯制作）年2回開催（H20～現在）



PTA活動・はぐくみ隊

PTA活動

昭和23年以来、保護者と教職員が協力して、「家庭・学校・社会における児童の幸福な成長を図ること」を目的として活動している。小規模校の持ち味を生かして全保護者が委員会に所属し、子どもを中心に据えて積極的に活動している。特筆すべきは『旗当番』である。毎日の登校時、交差点に立って子どもの安全を見守っている。全保護者が輪番で参加しており、本校PTAが他に誇れる活動である。



子どもはぐくみ隊

平成18年3月、学校・PTA・警察の連携のもと、「地域の子どもは地域で守る」という熱い思いから、地域の子どもたちの健全育成と安全を図るため、西天満校下「子どもはぐくみ隊」が組織された。以後、日々子どもたちの登下校の安全を見守る活動と、年1回の総会・会合を持ち、相互の連携と子どもの安全についての情報交換を行っている。



歴代校長一覧

代	名 前	在職期間
1	上 森 端	明治20. 1～明治21. 3
2	磯 田 樸 夫	明治21. 3～明治23. 2
3	多羅尾 光 利	明治23. 2～明治29. 4
4	上 野 璋太郎	明治29. 4～明治30. 10
5	多羅尾 光 利	明治30. 12～明治38. 4
6	野 村 菊太郎	明治38. 4～大正 9. 12
7	棕 本 辰治郎	大正 9. 12～昭和11. 12
8	山 内 源 蔵	昭和11. 12～昭和16. 3
9	水 川 直 蔵	昭和16. 3～昭和21. 3
10	梶 山 精 一	昭和21. 3～昭和23. 3
11	角 谷 政 雄	昭和23. 3～昭和27. 9
12	隅 五 陸	昭和27. 9～昭和32. 3
13	東 山 總 雄	昭和32. 4～昭和38. 3
14	阪 上 春 夫	昭和38. 4～昭和40. 3
15	山 本 才治郎	昭和40. 4～昭和42. 3
16	井 塚 陽 一	昭和42. 4～昭和46. 3
17	石 田 光	昭和46. 4～昭和48. 3
18	辻 江 正 夫	昭和48. 4～昭和56. 3
19	辻 田 通 夫	昭和56. 4～昭和59. 3
20	竹 島 康 夫	昭和59. 4～平成 2. 3
21	岡 本 修 一	平成 2. 4～平成 6. 3
22	田 中 理	平成 6. 4～平成 9. 3
23	播 本 義 男	平成 9. 4～平成14. 3
24	倉 本 博 司	平成14. 4～平成19. 3
25	小 林 正 一	平成19. 4～平成24. 3
26	柴 山 浩 一	平成24. 4～現 在

歴代PTA会長一覧

就任年度	名 前	就任年度	名 前
昭和23	乾 久治	昭和56	八十島義郎
昭和24・25	矢内 清嗣	昭和57	田井 敦
昭和26・27	伊勢田勝栄	昭和58	馬場 靖夫
昭和28	秋田 馨	昭和59	勘田 征雄
昭和29・30	小島 福男	昭和60	後藤 孝一
昭和31・32	久保正二三	昭和61	牡丹 俊夫
昭和33	川口 達雄	昭和62	小林 俊行
昭和34	阪野慶一郎	昭和63	上野 雄造
昭和35	森 哲夫	平成元	亀井 一郎
昭和36	中村 巖	平成 2	辻 博志
昭和37	田中金太郎	平成 3	大谷 正雄
昭和38	谷尾 光夫	平成 4	小山 博民
昭和39・44	川村章三郎	平成 5・6	北風 浩三
昭和40	片岡 秀男	平成 7・9	伊藤 保彦
昭和41	荻野 重蔵	平成 8	辰田 信久
昭和42	松垣 幸平	平成10	霞流喜久英
昭和43・47	古川 浩一	平成11・12	高橋 賢次
昭和45	長田 茂三	平成13・14	林 秀昭
昭和46	竹田 操司	平成15・16	入江 大三
昭和48・50・55	福山 三郎	平成17	中島 雅智
昭和49	谷口 幸男	平成18・19	小出 健次
昭和51	山本 三郎	平成20・21	野村 隆史
昭和52	池田正三郎	平成22	池田 和夫
昭和53	三輪 和邦	平成23・24	松江 孝朗
昭和54	川村 一郎		

未来へ向けて めざす学校像

(創立140周年記念事業準備委員会)

教職員と保護者が「場」と「時間」を共有し、今後の西天満小学校のあるべき姿をともに考えてきた。

基本構想の策定

記念事業準備委員会

学 校
(校長・教頭・教務主任)
保護者・地域
(創立130周年以後の歴代PTA会長)

イメージの共有化・具体化

記念事業ワークショップ

◇記念事業準備委員会
◇教職員代表
(校内周年行事準備委員)
◇保護者代表
(PTA学級委員)

めざす学校像(140周年のテーマ)

たくましく 希望に満ちた学校づくり

ー児童・教職員・保護者が、学ぶよろこびを感じ合い、ともに成長しようー



《「三つの合い」を基本理念に》

ともに学び合い ともに認め合い ともにつなぎ合い

西天満小学校の良き文化・風土を大切に次の世代につないでいく

◎具体的な取り組み

- ◇日記「たくましくのびていこう」の意義目的の明確化
- ◇服装・身だしなみの励行と明文化
- ◇教職員・児童・保護者で140周年記念式典を創りあげる

◎150周年にむけて(150周年につながる140周年を)

- ◇礼儀礼節の推進(学校と保護者が価値観を共有する)
- ◇「綺麗の好循環」を育む学校風土づくり(いつまでもきれいな学校に)
- ◇「感謝」「感動」を感じ合う学校づくり